

当院で生じた異型輸血について

当院において、手術中に異型輸血を行った医療事故が発生しました。この度、患者さんの同意が得られましたので、公表させていただきます。

1 事案の概要

2023年11月に施行した大動脈解離の手術中に、人工心肺装置を介して輸血した際に事故が発生しました。担当者は別室で手術予定であった別患者さん用に用意していた赤血球製剤（O型）を手術室の血液保冷庫から持ち出し、院内で定めた確認手順を遵守せず、当該患者さん（AB型）に輸血を実施しました。約30mLの異型輸血が実施された時点で気づき、投与を中止しました。その後、厳重な監視を行いました。異型輸血が原因と考えられる症状や所見は認められていません。

2 対応と再発防止策

医療の質・安全管理部を中心に院内で医療事故の原因分析を行い、

- ① 人工心肺装置を介した輸血投与手順が適切に定められていなかった事
- ② 輸血投与時の確認手順が遵守されていなかった事
- ③ 手術室血液保冷庫の管理に問題があった事

が問題点として挙がり、それぞれに対して再発防止策を立て、運用改善を実施しました。

今回の異型輸血の発生に関しては、患者さんをはじめご家族の皆様には多大な苦痛と不安をおかけしたことを深く反省しお詫びを申し上げます。医療事故発生を受けました後は、まずは患者さんの治療を最優先するとともに、事故原因の究明と再発防止策を検討いたしました。この検討結果を踏まえ、再発防止策を早急に実施しており、今後、同じようなことを繰り返さないよう職員一丸となって一層安全で確実な医療の提供に努めてまいります。

神戸大学医学部附属病院

病院長 眞庭謙昌